

高村光雲

児玉 寛嗣

西日暮里駅を出ると道灌山通りで、左側に坂が見える。坂を登りきると第一日暮里小学校の門がある。門の前の看板には「高村光太郎は明治二十三年に下谷区練塀小学校から転校してきて、ここで勉強し、小学校を卒業しました」と書かれている。詩人・歌人・彫刻家・画家として幅広く活躍した光太郎はこの学校の誇りでもあるようだ。光太郎の父、光雲の自伝を読んだばかりだったので、この看板の説明は深く印象に残った。もともと光太郎の通っていた頃、学校はもう少し上野寄りにあったようだ。自伝を読むと光太郎が転校してきた経緯がわかる。

当時、既に著名な彫刻家であった光雲は出来たばかりの東京美術学校（現・東京藝術大学）の校長であった岡倉天心に先生をやってくれないかともちかけられた。光雲は「学もない自分なんか先生なんてとんでもない。できません」と固く断ったそうだ。しかし、天心は「貴方が仕事場で日頃やっていることを学校にきてやってくればよい。生徒はそれを見ていだけで勉強になる。……。」と言われて、それならと引き受けた。学校の近くに住んだほうが都合がよいと考えて、健在だった父親に隠居仕事として家探しを頼んだ。学校に近い谷中に家を見つけてきたので引越したそうだ。

光雲は嘉永五年に上野で生まれた。子供の頃から木を切ったり、削ったりすることが好きだった。それを見ていた父から「お前は大工になるがよろう」と言われ、大工になるつもりでいた。しかし、たまたま行った床屋のオヤジに「俺の友達の彫刻師が弟子を探している、どうだ」と言われ、話を聞き面白そうだと思い、高村東雲という彫刻師に弟子入りにすることに決めたそうだ。十二才の時のことだった。

床屋に行っていなければ、「彫刻家・高村光雲」は誕生しなかった。人間の運命などわからないものだ。生まれた場所に近い上野公園では光雲作の西郷隆盛の像が天空をにらんでいる。

二〇二二年二月二日（800字）